

【寄書】

我々は今、野望を抱かなければならない

池田 和人

1. 日本は本当に先進国か？

私はバブル全盛期に学生時代を過ごし、バブル崩壊直後の 1992 年に当時の日本合成ゴム株式会社(現 JSR 株式会社)に入社しました。日本のバブル崩壊はソビエト連邦崩壊による東西冷戦終結と時期が重なっており、日本とソ連における 2 つの崩壊は密接に関係していると推測しています。

さて、マクロ経済学では、名目 GDP は『所得』を意味します。下表に示すとおり、2000 年に世界第 2 位であった日本の『一人当たりの名目 GDP』は、2023 年現在、世界第 34 位です。裕福な先進国は所得も物価も高いのが普通です。だから、裕福な先進国の人々は海外旅行ができるし、海外の高級ブランド品を買えるのです。原油や天然ガスを相対的に安く輸入できるのも所得と物価が高い先進国の特権です。

国名	2000年	2023年
日本	2 位	34 位
	39,173 米ドル	33,806 米ドル
スイス	3 位	3 位
	38,978 米ドル	100,413 米ドル
米国	5 位	6 位
	36,313 米ドル	81,632 米ドル
香港	15 位	22 位
	25,574 米ドル	50,030 米ドル
シンガポール	20 位	5 位
	23,853 米ドル	84,734 米ドル
韓国	36 位	35 位
	12,263 米ドル	33,192 米ドル

【表】一人あたりの名目 GDP (2000 年→2023 年)

2. 日本の高度成長と吉田学校の若者たち

話は飛びますが、戦後の宰相「吉田茂」が育てた若者たちが、その後の日本の高度成長を実現してくれました。その若者たちとは、後に首相となる池田勇人、佐藤栄作、田中角栄、大平正芳、鈴木善幸、宮澤喜一です。吉田茂の下にいた池田勇人は、「中小企業の一部倒産はやむを得ない」と発言したとされ、大蔵・通産大臣を辞したことがある人物で、不信任決議の可決により大臣を辞した人物は、日本国憲法下で池田勇人ただ一人です。彼はまた、「貧乏人は麦を食え」と発言したとされ、社会を敵にしました。しか

し、その池田勇人は、後に首相となり、『所得倍増論』を前倒しで見事に実現してくれました。前任者の岸信介政権時代に蔓延した『安保闘争』というネガティブな風土を『所得倍増論』という自由でポジティブな風土に一気に転換させた池田勇人首相の政治手法は現代にも活かすことができます。



【写真】吉田茂(左)、池田勇人(中)、田中角栄(右)

吉田茂の下にいた田中角栄は、当時、若干 29 歳の 1 年生議員でした。国会の総務委員会の席で辞任を要求された吉田茂首相を救うべく大演説を行い、「1 年生議員は引っ込め！」というヤジが飛んだ話は有名です。これは、映画『小説吉田学校』的一幕にも出てきます。この田中角栄は、後に首相となり、『日本列島改造論』を見事に実現してくれました。

なお、吉田茂の下で育った若者たちが後の首相として偉業を成し遂げられた背景には、吉田茂が首相として最後を迎える 1954 年に米国と結んだ『MSA 協定』の存在があります。日本は、米国の敵国であったにも関わらず、『MSA 協定』により経済援助を引き出すことに成功し、それが日本の新幹線や高速道路の原資になりました。これは吉田茂の温かい親心です。

3. 我々は今、野望を抱かなければならない

カーボンニュートラルもデジタル化も、実行するのは『人』です。社会の進化により、仕事はモノが実行するように思われがちですが、そのモノを導入し利用するのは『人』です。人が育てば社会が育ちます。社会が育てば国が育って歴史になります。

『一人あたりの名目 GDP』が世界第 34 位にまで落ち込んだ日本の復興は、『人と技術の力』で成し遂げるしかありません。我々には、今、歴史を学んで現実を知り、未来への野望を抱く時が来ているのです。

元 JSR 株式会社、技術士(化学部門・総合技術監理部門)
池田和人技術士事務所 代表、テクノメイトコープ理事